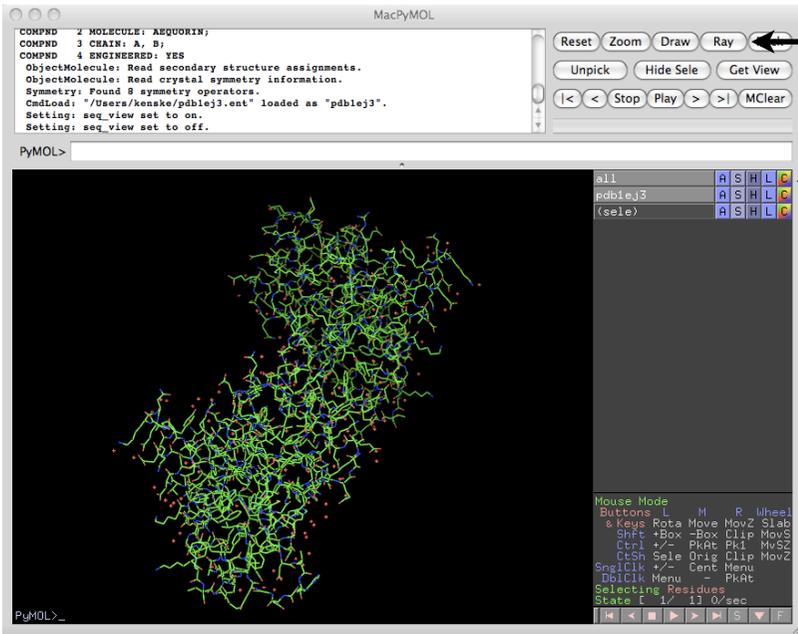


簡単なPymol の使い方 PDBファイル 1EJ3 を使った例

Pymol File Edit Build Movie Display Setting Scene Mouse

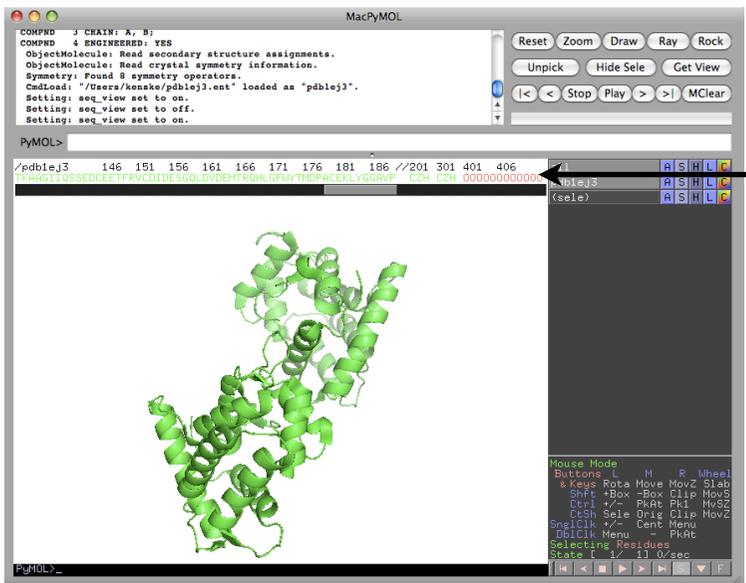


Rayボタンを押すときれいな描画が出来る (すこし時間がかかる)

使うのは一段目(all)と三段目(sele)
 A:操作、S:表示、H:隠す、L:ラベル
 C:色
 H->line : 線画を隠す
 H->Water:水を隠す
 S->Cartoon:リボン表示
 S-> Sticks:結合を太い棒で表示
 S-> Sphere:原子を球で表示
 C->Chain:繋がった部分を同一色
 C->Spectrum:繋がった部分をすこしずつ色を変えて表示

メニューのうち、今回使うのは、
File メニューからは
 Open : ファイルを開く
 Reinitialize: 新しいファイルを開く前にリセットする
 Quit : Pymol を終了する
Display メニューからは
 Sequence On ; アミノ酸配列を表示する
 Background -> white :背景を白に

ファイルを開いた状態 (左図) から
 Display->Sequence On
 Background -> white
 all-H-> Water
 all-H->line
 all-S->Cartoon
 とすると左下のようなになる



配列からCZHを一つ選び
 (sele)A->Zoom
 (sele)S->Sticks
 とすると右図の様に表示される

画面の描画された図の部分またはアミノ酸配列をクリックすることで構造の一部が選択される
 こうして選択された部分(sele)について描画の仕方を変えることが出来る

